

# ハトムギ栽培情報 第2号

平成23年 7月  
氷見市農業技術者協議会

今年のハトムギのは種は、5月中旬頃からはじまりましたが、5月20、21日には種したほ場では、その後大雨の影響で出芽不良となり、再は種したほ場が見られます。  
また、一部で雑草が多く発生しているほ場もあります。  
今後の管理は、ハトムギの品質や収量に大きく影響しますので、生育状況を確認し、培土（中耕）、追肥や病害虫防除を適期に行いましょう。

## 1. 追肥や培土は遅れずに！

<p>1回目培土 + 追肥</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時期 草丈 50~60cm (播種後 40日~50日頃)</li> <li>●目安 第1葉にかかる程度の培土</li> <li>●肥料名(施用量) LPコート100 <u>30kg/10a</u></li> <li>※ハトムギ専用基肥一発肥料を使用した圃場は追肥の必要ありません。</li> <li>●雑草の発生が早回った場合は、<u>早めに中耕を行ってください。</u></li> </ul>
<p>2回目培土</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●時期 草丈80~90cm</li> <li>●雑草の発生が早回った場合は、<u>早めに中耕を行ってください。</u></li> <li>●畑地 1年生雑草が多い場合は、バサグラン液剤(150ml/100<sup>㎡</sup>/10a)を散布します。</li> <li>※ただし、イネ科雑草には効果がありません。</li> </ul>

## 2. 適期防除により病害虫の発生を予防しましょう

初期発生は見逃しやすいため、予防防除を行いましょ。

適用病害虫	1回目 草丈60~80cm (7月中旬頃)	1回目の3週間後 2回目	病害虫の特徴
アワノメイガ	サブリナフロアブル 300ml/300 <sup>㎡</sup> /10a	トアロー水和剤CT 300g/100 <sup>㎡</sup> /10a ※展着剤の併用が効果的です または ディプテレックス粉剤 4kg/10a (1週間間隔で2回散布)	 <p>茎と葉の付け根付近から茎内に侵入し、内部の髓を食害します。被害は7月中~下旬から散見され被害茎は枯れ上がります。</p>
葉枯病	ロブラール水和剤 300g/300 <sup>㎡</sup> /10a		 <p>楕円形の病斑が下位葉から上位葉へ進展し、白く枯れ上がります。</p>